

あしやすふんクラブ通信

2000年
(平成12年)
春号
(第1号)

発行者：芦安ファンクラブ
山梨県中巨摩郡芦安村芦倉
1589-8
055-288-2531

機関紙発行開始

昨年の冬、南アルプスと芦安村に夢をたくす人々が集まり芦安ファンクラブが創設された。この奥深い山々が与えてくれる感動を、少しでも多くの人々に味わってもらいたいと願い、それを受け入れる芦安村をどのように整備してゆけば良いのかを考えながらはや一年が過ぎた。今後さらにこの活動を発展させるために、より多くの人々から「意見」と「協力をいただき、いっそう洗練されたプロジェクトを企画してゆこう」と思う。そこで今回、私達の活動をなせるべく多くの方々を知ってもらうため、芦安ファンクラブの機関誌を発行することとなった。

昨年一月、花岡

利幸(山梨大学教授)氏が中心となつて芦安ファンクラブが創設された。クラブでは毎月第三木曜日に定例検討会が開かれ、日本第一の高峰北岳をはじめとする南アルプス山岳地域の適正利用を念頭に置きながら芦安村の活性化をめざす多くの議論がなされている。クラブには夜叉神峠以西の山岳地域を検討対象とする奥山分科会と、夜叉神峠以東の生活区域の整備を主な目的とする村中分科会がある。前者は南アルプスの自然を適正利用することを前提とした観光事業員直しを検討し、後者は村の豊かな自然をいかし、村民が安心して暮らせる生活環境の創造を主な目的としている。

立公園に制定されてから35年になる。その間、自然公園法による規制のもと、南アルプスはほとんど開発されることなく放置されてきた。これは一方で、手付かずの自然を保存し、その昔ながらの山容が多く登山者から高い評価を得ることとなったが、他方では増加する登山者を受け入れる施設の整備が整わず、かえって自然の汚染を招いている現実もある。クラブでは、南アルプスの抱えるこのジレンマを見据え、芦安村の活性化と山岳地域の開発との適正な共存点を模索している。



また、村民の多くは観光業と直接関係なく暮らしている。このような人々の生活環境、福祉教育などの生活に密着したサービスの向上と観光開発とをいかに結びつけるかもクラブの大きな課題である。

な課題である。クラブには芦安村や山梨県の行政担当者、村会議員、地元企業の役員やペンション、旅館のオーナー、山小屋の管理人をはじめ、主婦や学生まで幅広い分野の人々が集まる。今回の機関誌発行を一つの分岐点として、クラブではその活動を広く一般の人々にも知ってもらい、さらに多くの分野から多様な斬新なアイデアを集め、プロジェクトを創出し、芦安村と南アルプスの活性化に役立てることを目指している。

自然保護・山小屋改善

生活施設整備など9項目

昨年八月、結成以来積み重ねられてきた議論をクラブは中間報告としてまとめた。村への提言というかたちで清水哲夫村長に手渡した。これは環境庁が現在進めている南アルプス国立公園管理計画の見なおしに先立ち行われる関係市町村へのヒヤリングの際に、参考にしてもらうべくクラブが作成したものである。

今年一月には、この中間報告を軸として、村は南アルプスの将来像を主題とした意見書を県にあてて作成し、さらに県を經由して環境庁との意見交換を実現した。クラブでは、環境庁の公園利用計画見なおしのなかにこの意見書が反映されることを期待している。

芦安村に中間報告

環境庁・県との意見交換へ

の保護や山小屋施設整備をはじめとする自然保護を重視した南アルプス適正利用の意見書である。

また、村中分科会の提言では、自然と共生する暮らしの創生、歴史文化の継承、

夜叉神峠を中心とする景観地域の見直し、

経済の活性化、に重点がおかれている。ここには夜叉神峠周辺の駐車場整備や通年型観光開発等による経済的活性化に基づいた村内

生活環境の充実への希望が集約されている。

芦安ファンクラブに関する詳しいお問い合わせは左記まで
〒400 0241

山梨県中巨摩郡芦安村芦倉

1589 8

電話055(288)(253)1

芦安ファンクラブ事務局

「ペンションらんたん」大滝

高谷山へ

第2回 登山教室開催

芦安ファンクラブ主催の第二回南アルプス・芦安村登山教室が今春五月二十日・二十一日の二日間にわたって開催される事が決定した。一日目は芦安村交流センターふれあい館にて山梨県山岳連盟などから講師を招き、登山基礎知識、山の気象学、地図やコンパスの使い方などを学ぶ。その夜は山間の温泉旅館・右衛門館に宿泊し、二日目は鳳凰二山の入口ともいえる夜叉神峠を超え、残雪の3000m峰・白峰二山を右手に見ながら登山教室の目的地となる高谷山(1842m)へ。下山は山頂を越えて山梨の森林100選に選ばれたシラビソ林を抜け樺平、松尾峠を周回して登山口へと戻る。ルートは初心者から中級者向きで全行程は昼食や休憩時間を含めて七時間程度である。登山教室はこの後、露天風呂の温泉で疲れを流し全日程を終了する。

クラブの主宰した第一回登山教室(昨年十月・栗沢山2714m)は台風の心配をよそに参

加者27名全員が無事に下山し、全日程におけるスタッフのきめこまかな対応は好評を得た。しかし、参加者の感想文の中で、コンパスの正しい使い方や地図の読み方を教えて欲しかったとの要望が多く見られたため、今回の登山教室はこの点を改善して企画されている。

また、前回は参加者27名のうち21名が50代以上であったが、これは現在の登山ブームが中高齢者によって支えられていることを裏付け結果となった。そこで今回の登山教室は、このような中高齢者に限らず、山に興味のある若者にも充分楽しんでもらえるような工夫を凝らしており、幅広い年齢層からの参加者を期待している。

参加費は一泊二食付・講習費込みで一萬九000円。申し込み方法は電話または官製はがきで、氏名、年齢、住所、電話番号、登山履を明記して左記まで。

「登山教室事務局」
〒400 0241
山梨県中巨摩郡芦安村芦安
1589 8
TEL 055 (288) 2531
大滝豊彦造

北岳登山百周年記念祭

ウェストン

日本アルプスを世界に紹介し、日本山岳会の設立に尽力した宣教師ウォルター・ウエ

ストンは今から約百年前、まだ日本人もそれほど登ったことのない北岳に外国人として初めて登頂し、今読んでも鮮明な登山記録を残した芦安ファンクラブはこのウエストンの残した数々の功績を高く評価し、改めて南アルプスを世界の人々に紹介するために、来年度にウエストン北岳登山百周年記念祭を開催する予定である。

これが、日本の山岳文化について考えるよい機会であるとともに、これからの南アルプスをはじめとする日本の山岳地域開発の方向性を見出すきっかけともなることをクラブでは期待している。

芦安村長と語る会開かれる

平成九年十一月、芦安村に在住する有志で「温和で明るく楽しい魅力的な芦安村を作る」ことを目的に「芦安村を支える若い仲間会」が結成されました。(川崎浩会長・会員数74名)

当会は平成十二年四月十八日、第二回の対話集会を行政から清水村長、青木総務課長、また、村議会からオプザバーとして、深沢、伊東の両議会議員を迎えて開催いたしました。当日は会員約二十名が出席して、今日、芦安村が抱えている様々な課題、特に町村合併、福祉、教育、観光、住環境、産業振興、過疎、少子化問題等について活発な意見交換がなされました。清水村長は「合併協定の討議内容をどのように村民に伝え、また、村民の意見を合併協定に反映させるべきかを考えている。芦安村の将来に憂いを残さないように慎重に対処して行きたい。また、村政活性化のため、会員の皆さんの貴重な意見を行政に積極的に取り入れると同時に、役場の機構改革らを行い、魅力ある芦安村建設のため地域住民が積極的に行政に参加していただくことが必要です。今後も皆さんに期待したい。」と結んで協力を求めました。

この会に参加させていただき、芦安村の人々の真剣に村を考えている情熱に感動を覚えました。この会がさらにより多くの村民の要望や意見を反映できるかの課題も見え隠れしていましたが、すばらしい芦安村の活性化の為に、会の活動に大きな期待をいたします。(塩沢記)



タイトル：北岳の稜線
撮影：井上勉

心でみるもの

乳(ち)を作れ!

芦安ファンクラブ代表 花岡利幸

南アルプスの前衛山にあたる芦倉の裏山は、夜叉神峠、高谷山、樺平の三つの峰の連なりから成り、その東斜面は壁を作って、盆地側へ一気に急斜面を駆け下りる。その麓が御勅使川扇状地の扇頂・芦安村である。これらの前衛山の峰に立つと、その奥に視界が忽然と開け、3000m級の鳳凰二山、甲斐駒ヶ岳、白峰三山、白峰南嶺の南アルプス連山の大パノラマが展開する。絶景である。

夜叉神峠登り口 松尾峠 中池 樺平のルートを整備しよう! 芦安ファンクラブが目をつけたのがこのルート整備である。未開の地、樺平からの土気折々の大パノラマの眺望は、天下二品のそれに値する。

麓から続くこの道は昔、自動車時代の前は、薪炭、鉱石関係の物資輸送ルートとして村人の産業道路で、二十貫目の荷物を背負った女手が黙々と行き来した道であった。だから道の勾配は凹凸を避け、一定の片側勾配を保つように作られている。したがって、少しの危険箇所は手が入れられて人が通れるように、その勾配を保って道を作った。その後、この道が使われなくなり、この方向十年の間に、その危険箇所が崩れて往来が不可能になった。

その道を芦安ファンクラブが手を入れて登山道として復活させようという計画が立てられた。四月十五日、清水、塩沢、青木、中村、そして私の五人は松尾峠、中池間の危険箇所の道づくりを汗を流した。本来ならば、片側勾配を保つ道づくりをしなければならぬが、登り降りよりも安全度を優先して、道の付け替え作業をした。許可済(こは、奥有林、国立公園内であり、一本の木を切るにも許可が要る。)の立ち木を切り倒して一本の長い材を崖に立てかけ、何段もの足がかりをつけた梯子を作り、危険箇所を迂回した。

二本の長材を平行に立てかけ、下から順に横木を固定して梯子段を作っていく。横木の当たる長材の部分を鉋(なた)でくり抜きをいれて、横木を針金で長材に固定し、銚(かすがい)でとめれば、一段ができあがる。足がかりを作る作業は、こうして一段づつ上って行った。横木を針金で長材に固定する作業は意外に難しいものである。

針金を適当な長さ(横木の太さに合わせて微調整した長さ)に用意し、中間で折り曲げて、そこにミミを作る。このミミを横木の固定部分の上に持ってゆき、左手で押さえ、右手で残りの二つに分かれた針金を各々長材を抱きかかえて一巻きし、ミミのところで会合させる。ミミにシノ(先細り、先曲がりの金工具語源不明)を突っ込みギリギリと回転すれば針金は十字を作って締め、横木は固定される。この横木の固定はミミの位置によって成否が決まる。簡単なことのように思えるが熟練が要する仕事である。

こうして一日が過ぎ、一仕事を終えた。下山して、岩園館の露天風呂に浸かった。塩沢さんの奥さん達も合流して、酒盛りの宴会である。彼女等は昼のトン汁を用意して塩沢さんにもたせてくださった。風呂に入りきって偶然会ったといっていたが、御主人の無事を心配して岩園館までお出迎えと心得た。

宴席で興味深い話を聞いた。ミミのことを「ち」と言っていて清水さん。小さな輪っかのことをそう呼ぶという。ちはどうな字を当ててるのかと私。羽織の紐をつけるための輪を「ち」といってお乳の乳と書くと博覧の塩沢婦人。それから怪しい連想も含めて、いろいろの話がでたが、どうも「ち」は乳らしい。

結論 梯子づくりに「乳を作れ!」これは要の意にも似ていて、いい話ではないか。「手作りの技術は知恵の輪」が要というお話で落ち着いた。疲れた一日。ためになった一日。面白かった一日であった。芦安は肉体と精神を養う宝庫である。

小学館の日本語大辞典に次のような正解があったので併記する。

乳(地)：形が乳首に似ているでち(ち)が(ち)竿、綱、紐などを通すために旗、幟、幕、蚊帳、羽織、草鞋(わらじ)などの縁につけた小さな輪
ミミ、シノ、梯子(はし)の肩(かた)また、ち、如何、乳に准じて、ちといふを(ち)を語記

少子・高齢化の社

会への影響は年金医療、福祉制度のみにあるわけではない。芦安村では教育の現場でも生徒数減少が大きな問題となっている。芦安中学の小澤修一教頭によると、昨年の全校生徒は26名、今年は20名にまで落ち込んだ。

「このままでは部活動が維持できなくなる。例えば40年近くの伝統を持つバレー部もチームをつくれな」といのが現状だ。

少子化傾向とともに生徒減少に拍車をかけているのが、競争と学力神話、「我が子を進ませたい」と思う親の多くは、義務教育を「競争のある大きな学校で学ばせたい」と芦安村を離れる。これは、他の生徒との競争が学力を向上させ進学を可能にするという、本質を見誤った思いこみだ。実際は、学力の向上は恵まれた学習環境と本人の学習習慣に大きく左右され

る。

芦安の小・中学校は学習環境に大変恵まれている。新学習指導要領を先取りして、「総合的な学習の時間」を積極的に確保し、地域学習を進め、地元の経験者や技術を持つている人々から学ぶ機会を設けたり、職場体験学習をしたりしている。また、小さい学校の特色を生かして、生徒会、学園祭、合唱隊など、すべての学校行事は全員で力を合わせて盛り上げ、仲間と協力して問題を解決する方法を学ぶ。教師陣は優秀である。芸術系の教師も充実している。学校長も教育環境の整備には積極的だ。何よりも、生徒一人あたりの教育予算は全国トップクラスである。これは、教師が生徒の個性とレベルに合ったきめの細かい指導ができることを意味している。

中学生から始めよう 芦安の未来づくり

小澤教頭はこの恵まれた教育環境を少しでも多くの村民に理解してもらおうと、学校、家庭、地域が一体となった学習環境を整備してゆくことを現在の努力目標としている。「中学生から芦安村を愛えていってもらいたい。そのための人材づくりをしたいのです」という教頭の言葉



は印象深い。
 昨年九月、ナンガレ沢ルート
 の登山道整備をしていた芦安フ
 ンクラブのメンバーが夜
 叉神の森付近で「谷積み
 技法」といわれる堅固な
 石積みを発見した。これ
 は明治4年、時の村長・
 名取直江が官許を得て北
 岳に甲斐ヶ根神社を建立
 した際の前宮の跡地では
 ないかと期待が高まった。
 石積みは北岳を背にする
 と富士山を真正面に見る
 位置に、高さ約10m、
 幅約15mの規模で組ま
 れており北岳を奉った神
 社の土台として充分な風
 格と見えた。

これは新聞にもセンセ
 ーショナルながちで取
 り上げられたため周辺で
 はにわかに関心が高まり
 クラブでは芦安文化財審
 議委員会の専門家を招い
 て本格的調査に乗りだし、
 事実関係の解明を急いだ。

調査の結果、そこは、野呂川
 林道開設当事に使用した国
 員詰所の跡地ではないかとい

甲斐ヶ根神社 前宮発見？

う推測がなされたが、これは
 昭和27年から30年にかけて
 この場所に建てられていたとい

益々なぞは深まると同時に、山
 岳文化の歴史を辿るロマンはい
 つそう大きくなる。クラブでは
 さらになる事実解明に向けて様々
 な角度から調査
 を継続している。

その昔、甲斐の
 国の水出川と
 言えは、国一番

う推測がなされたが、これは
 昭和27年から30年にかけて
 この場所に建てられていたとい
 う推測がなされたが、これは
 昭和27年から30年にかけて
 この場所に建てられていたとい
 う推測がなされたが、これは
 昭和27年から30年にかけて
 この場所に建てられていたとい

時を越えていま

と言われる程の暴れ川であった。
 その「水出川」の源には、
 夜叉神と
 言いつつ、

「夜叉神」は体がとても大きく、
 そのくせ身軽で山でも谷でも自
 由自在に飛び歩き、暴れまわり、
 いたずらをして村人を苦しめて
 いた。夜叉神のいたずらと言えは
 雨雲を吹き飛ばし日照り続きに
 して田畑を枯らしたり、かと思
 えは雨雲を集めてきて洪水を起
 こしたり、さらには山で大暴れ
 して山崩れをおこしたり、といつ
 ものだった。村人は皆、それらを
 「夜叉神のたたり」と言いつつ大変恐
 れていた。

ある夏の夜、突然、村をもの
 すごい大雨があつた。大雨は3
 日間降り続き、とうとう3日目
 の夜、「ドーン」といつすさまじ
 い地響と共に芦倉山が半分崩れ
 落ちてしまった。この様子を見た
 夜叉神はますます荒れ狂った。
 そして雨は勢いを増し、村は見
 る見ぬつち湖のようになってし
 まった。さらにその水は荒れ狂つ
 濁流となって釜無川へと流れ込み
 ついに甲府盆地をも湖にしてし

またといつ。流れに追われ、飲み
 込まれた人々は深く悲しみ、嘆
 きの声をあげた
 時の甲斐の国の国司(知事)は
 その様子を見て天皇に助けを求
 めた。天皇はとても心配なさつて
 ちよくし
 勅使(天皇のお使い)を出し、
 水難の防除と兵に人々の悲しみが
 早く癒されるようにと、神に祈
 られたといつ。

一方、村人も夜叉神を慰める
 ために、村を一望できる峠、現在
 の夜叉神峠に石のほつちを建て、
 夜叉神を手厚く祭り祈りをさ
 さげた。こつした村人の祈りが
 通じたのか、それからは夜叉神
 のたたりも少なくなり、いまだ
 は山を守る縁結びの神として親
 しまれている。そして、それまで
 「水出川」と呼ばれていた暴れ川
 は、天皇のお使いつまり
 「みちよくし
 御勅使」が来て治めて下さつ
 たと言つことから「御勅使川」と
 書いて「みちよかわ」と呼ぶようになつた。と言ひ伝えられてい

芦安ファンクラブ通信は年4回発行し、芦安村の活性化を目指す様々な提言をしてゆきたいと思ひます。読者の皆様からの御意見はファンクラブの活動を有意義な内容にするために不可欠です。どうか、自由で遠慮のない声をお聞かせください。芦安ファンクラブに関する詳しいお問い合わせ、入会のご希望は下記まで。尚、年会費は1,000円、南アルプスと芦安村に夢を語ってくださる方でしたらどなたでも大歓迎です。

〒400-0241

山梨県中巨摩郡芦安村芦倉1589-8

電話055(288)2531

芦安ファンクラブ事務局「ペンションらんたん」大滝